

令和元年度（第1回）葉山町総合計画審議会 会議録

- ◇ 開催日時 令和元年10月29日（火） 15時より17時
- ◇ 開催場所 葉山町役場 3階 議会協議会室1
- ◇ 出席者 臼井正樹会長、荒本広之委員、南森生委員、伊東強委員、三澤直樹委員、
近藤大輔委員、高梨麻美委員、早川隆子委員
- ◇ 欠席者 1名（福安德晃委員）
- ◇ 事務局 山梨町長、伊藤政策財政部長、佐野政策課長、碓野主任
- ◇ 傍聴者 無し
- ◇ 議題
 - 1 開会
 - 2 町長あいさつ
 - 3 委員及び事務局の紹介
 - 4 会長互選
 - 5 議題
 - （1）第四次葉山町総合計画平成30年度実施計画事業の振り返りについて
 - （2）葉山町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について
 - （3）今後のスケジュールについて
 - （4）その他
 - 6 閉会
- ◇ 資料
 - ①第四次葉山町総合計画実施計画事業 振り返りの基本的な考え方について（資料1）
 - ②第四次葉山町総合計画実施計画事業の振り返り結果（平成30年度）（資料2—1）
 - ③継続の方向性を「改善して継続」とした事業一覧（再掲）（資料2—2）
 - ④事業の方向性を「終了（廃止・休止）」とした事業一覧（再掲）（資料2—3）
 - ⑤葉山町まち・ひと・しごと創生総合戦略（具体的施策）の進捗状況表
—平成30年度の振り返り—（資料3）
 - ⑥葉山町総合計画審議会規則（参考資料1）
 - ⑦審議会、委員会等の会議の公開に関する指針（参考資料2）
 - ⑧第四次葉山町総合計画実施計画事業振り返りシート（参考資料3）
 - ⑨第四次葉山町総合計画第2期基本計画策定スケジュール（追加資料）

1 開会（事務局(司会)）

ただいまより令和元年度第1回葉山町総合計画審議会を開催致します。この度は審議会委員を快くお引き受けいただきありがとうございます。選任後初めての審議会、また2年間お付き合いいただくことよろしくお願ひ致します。

2 町長あいさつ（山梨町長）

こんにちは、また、この時期がやってまいりました。前回、第四次総合計画の第1期計画のご議論をいただき、素晴らしい総合計画が出来上がりました、その後4年が経ち、この後2年かけて書き換えを行ってまいります。

職員の中ではまとめていただいたものの中でも、特に政策財政については、借金の金額、基金の残額、公共施設整備基金5億円等、合言葉のように繰り返し唱えながら仕事をしてまいりました。自身の心にもしっかりと受け止められる分かりやすい内容であり、私達が発信する際に、議員の皆さん、町民の皆さんにも総合計画という言葉を使いながら説明する機会では、わかりやすく説明することができたことはとてもありがたかったです。内容的にも充実しており、現在財政の面でも順調に進んでおります。

ただし、これから公共施設の再整備、例えばクリーンセンターの解体や給食センターの設立等、いろいろな大規模事業が待ち構えていますので、今が葉山町の勝負どころとも言えます。そういった意味では、ベースとなる計画作りが行政の基本となるため、皆様にはご負担をかけて申し訳ありませんが、総合計画の審議、何卒よろしくお願い致します。

事務局

配布資料の確認を実施。

3 委員および事務局の紹介

初回の審議会のため、山梨町長より委嘱状を各委員に授与
事務局紹介及び各位委員より自己紹介

臼井委員

3月まで県立保健福祉大学の教員をしておりました、今はフリーターをしております。少しは暇だろうから引き続きやるようにという要請の元、ここに座っております。

荒本委員

本日から初めて参加です。よろしくお願い致します。

南委員

どうぞよろしくお願い致します。

伊東委員

町内連合会の会長をおしつけられてやっています。よろしくお願い致します。

三澤委員

横浜銀行支店長三澤です。今年8月から葉山町に赴任しまして知らないことばかりです。よろしくお願い致します。

近藤委員

地元葉山逗子から選出されております県会議員の近藤です。臼井委員同様、お世話になっております。答申まで議論をつくしてまいります。神奈川県議員でありますので、4月に知事が当選されまして総合計画を作り直しておりますが、市町村ともリンクしますのでよろしくお願いいたします。まち・ひと・しごと創生総合戦略では、来年度からではありますが、また、神奈川県が第2期計画を作ると黒岩知事が表明されていますので、葉山町にも関わりがでてきますので、より葉山にとって良い計画になりますよう頑張りたいと思います。

高梨委員

普段は白百合女子大学で教鞭を取っております。ワークショップで町長から声をかけていただき、町の計画に町民の声を入れてもらえるということで、ここに居させていただいています。どうぞよろしくお願い致します。

早川委員

この会では庶民中の庶民です。3期目になりますが、きっかけは民生主任児童委員をやっていた時ですが、私は現在、葉山町の大同生命保険で勤めております。佐野さんにはお世話になっております。

事務局

葉山町総合計画審議会規則第5条第2項の規定により、本日の審議会は、出席者8名のため審議会は会議として成立となった。

4 会長互選

葉山町総合計画審議会規則第4条第1項の規定により、近藤委員の推薦を受け臼井委員が審議会会長に選任された。

臼井会長（着任ご挨拶）

2月か3月に定年すると分かっており伊藤部長から連絡があり、5月にお話した時、退官をお伝えしたのですが、「まだしばらくやってくれ」とお願いされました。計画は、私一人で作ったわけではなく、経過も含めて一定の責任があるのだからやらなくてはいけないとお引き受けしました。ここ10日位の間に新聞とテレビで葉山町の話を見聞きする機会がありました。ひとつは福祉文化会館で天皇陛下即位式に合わせたコンサートがあったことが新聞記事に載っていたこと。もうひとつ、南郷上ノ山公園に東屋が整備されて山梨町長がコメントを出されていたこと、さらには、京急が女子旅きっぷを出していて、それを使って葉山を旅している3人を映している映像があり、海鮮丼や葉山コロッケ等のよい発信をしてくれていると思えました。計画は計画ですが、それを裏付けるために皆さまが努力した結果の一つだと思います。

皆さんが葉山を盛り上げるためにどんなことができるか、また、町民や町役場の皆さんが主役

ではありますが、皆さんの力をより効率的に引き出せるような計画の進行管理と次の計画のへバトンタッチができるようによろしくお願い致します。

続いて、審議会、委員会等の会議の公開に関する指針により、(目的) 第1条と(公開基準) 第3条に公開の基準について委員に諮ったところ、原則公開で審議を進め原則傍聴を認めることが承認された。

5 議題

(1) 第四次葉山町総合計画平成30年度実施計画の振り返りについて

(2) 葉山町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

臼井会長

(1)(2)については関連しているので一括で審議したいと事務局からお預かりしています。事務局説明をお願いします。

事務局

資料1に基づき、第四次葉山町総合計画実施計画事業振り返りの基本的な考え方について説明

資料2-1に基づき、第四次葉山町総合計画実施計画事業の振り返り結果について説明

資料2-2に基づき、継続の方向性を「改善として継続」とした事業一覧について説明

資料2-3に基づき、事業の方向性を「終了(廃止・休止)」とした事業一覧について説明

資料3に基づき、葉山町まち・ひと・しごと創生総合戦略(具体的施策)の進捗状況表を説明

臼井会長

資料2-1「総合計画実施計画事業振り返り結果」、資料3「葉山町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況表」どちらでも結構なので、ご意見有りましたらお願いします。

高梨委員

資料2-1の総合計画の振り返りの中で有効性や効率性で「改善の必要がある」なのに事業の方向性は「このまま継続」の案件がいくつかあるので説明してもらいたいです。番号では、有効性、効率性①が「改善の必要がある」なのに「このまま継続」なのが94・97・99の3つ、有効性「成果をあげた」効率性「改善の必要がある」で事業の方向性「このまま継続」であるのが8・145の2つ。

事務局

94 福祉団体の補助金については、「改善の必要がある」で「このまま継続」としているのは、財政課で今年度、補助金のカルテを作りました。補助金が予算の中で占める割合が高くなり、慣例的に今まで払っていた補助金をそのまま払っているような分析結果を掴んでいる中、限られた財源の中、公益性の高いものに補助金を出すべきという考えがあります。今は補助金を出していないが補助行為にふさわしいものもあります。会員数が多いですが、実働会員は多くない等、

実態として、活動をフルに町内会連合会など、「こんなことまで頼んで良いのか」というものまで快くやっている方々に補助金に交付すべきであり、町役場と連携して地域のために取り組んでいる方々に補助金を交付すべきと考えています。ただ、財源的には限られているため、プラスになるところもあるが、財源的にマイナスせざるを得ないところもあります。既得権というか、従前通り払われていたものが急になくなることによってその方々に及ぼす影響を検証した上で、今後、町として安心して補助金を出す理由、基準をリセットすべきですが、現段階ではまたその判断をする熟度に達していないため、当面はそのまま継続だけでも、将来的には、きちんとした指標に基づいて補助金を出すべきという理由で、このような結果としました。

97 地域福祉保健計画の推進計画については、半年前まで私が携わってきたもので、間違いないように説明します。コミュニティソーシャルワーク基礎研修、コミュニティソーシャルワークフォローアップ研修をやってきました。これは地域福祉を担っていく人材の発掘・スキルアップの研修で、逗子市、逗子市社協、葉山町、葉山町社協と4つの団体で連携して進めてきました。基本的には基礎研修で裾野を広げ、それとは別に既に実践されている方々にフォローアップ研修で難易度の高い個別支援に対するアセスメントの仕方や専門職との連携の在り方などという形で進めてきましたが、逗子市の方で少しずつ考え方が変わってきました。まだまだ人材の発掘が足りないので、専門職のスキルアップより裾野を広げる方が大事との意見をいただいています。4つの団体で進めてきた経緯があるため、町の方では研修が上手くいっているの、逗子市との関係上改善したほうが良いという部分も踏まえながら、でも、葉山としてはそのまま継続したいという話もあったため、「そのまま継続」という形にしました。今後、逗子市との話し合いの結果、考え方が上手く擦りあえば、また形が変わる部分もあるかと思います。

99 「福祉」生活支援サービス事業について・・・。

高梨委員

いずれも長期的支援として検討中であり、来年度すぐに行うわけではないけれど、その先で改善を予定しているような内容であるという方向性で良いですか。

事務局

改善しなくてはいいけないですが、いつのタイミングかと言うと、改善として捉えている認識がそれぞれの担当が同じかと言うと実は違い、ほんの少しのことで「改善とする」とする人と、抜本的な改善を改善と捉えて「改善する」とする人と温度差があります。それが直結して予算に結びつくのか、或いは費用対効果としてどのように影響が出てきたのかということを正確に分析しないといいませんが、今後振り返りシートの記入において、判断基準が揃うよう、差がないような取り組みをしないといいけないと考えています。

高梨委員

今後の検討をしているということで納得しました。

近藤委員

葉山町のひと・まち・しごと創生総合戦略の基本目標 2、3 頁にある「子育て支援サービスの充実」ということで、「認可保育園」数が KPI として挙げられていて 4 箇所を 6 箇所にする、30 年度で概ね順調ということで成果が出ていますが、今までであった認可外保育園が認可されたからこの様な数字になったという説明で間違いはないか確認をしたいです。

事務局

平成 29 年度に 2 園増えて目標値が達成されました。これは今まで無認可だったところが小規模施設という枠組みの中で認可されたとのこと。無認可という言葉と小規模として認可されたということで、既存のものがそうなったという話で、新しくできたものではありません。

近藤委員

見直すものの中には、町の政策転換で見直すものと、もうひとつは国の法体系が変わったのも見直すものがあります。

幼児教育・保育の無償化があり、この子育ての部分でいうと、総合計画にもあるし、まち・ひと・しごと創生総合戦略の中にも含まれています。人口減少の中で町をどのように運営するかという部分では、子育て世代をどう支えるのかは大事なポイントです。

10 月 1 日から支援制度が始まったことにより、保育園のニーズがまた新たに掘り出されるので慎重に検討しないといけないと考えています。

記載の通り、令和 2 年度に新園が開設され、町民のニーズが満たされるのかという点をもう一度洗いなおす必要があるように思います。重ねて葉山町には青空保育があります。外でフィールドワークをして保育を支えるものなので、県外では青空保育を保育施設として、業務として認めて運営をサポートするようなこともあます。議論する上で、葉山町の考え方を整理する必要があると思います。スタートしたばかりであるため、今どうなのかということはあえて切り込まないですが、今後、議論する上で重要なポイントではあると考えます。

あともうひとつは、幼稚園。教育委員会でやっていたものを一元化して総合計画に反映する、これはいい流れだと思っています。いずれにしても幼稚園・保育園の充足率、今後のニーズの変化をどう捉えるか、施設の認可無認可をどうするか、3 つのポイントを整理すべきと考えます。

臼井会長

今の話は先に向けての課題提起で、10 月から来年の 3 月までの間に 4 月以降の保育ニーズがどのように変化するのか、またそれが 1 園できることで足りるのか、それ以外にニーズがあるのならもう少し柔軟な保育ニーズの吸収の仕方が議論としてあってもいいのではないかと、前提となるのは、来年の 4 月の時点で保育のニーズが充足しているのかどうか、そこが一番大事なところなので、そこを見ながら先に向けてどうするかということを考えておいてほしいということが良いですか。

近藤委員

おっしゃる通りです。

事務局

わかりました。

南委員

公共施設について「未来プロジェクト」を立ち上げ別枠で検討するというのでいいのですか。学校に関しては、この後、地区の人口推移や学校施設の老朽化を見据えて統廃合や学区再編等、いずれこの事業の工程表に載ってくるでしょうが、今現在、この工程表の中で位置づけてあるのか、今後どういった見通しでこれに載ってくるのかというあたりを教えてくださいたいです。

事務局

非常に大きな問題になります。私の時は葉山中学校が1つでAからGまでの7クラス、小学校が上山口小学校と葉山小学校の2つでした。人口推計を見ると、私達が中学校3年だった時に、将来的には人口は落ちていくだろうとの推計値はでていました。近い将来の話ではありません。学校施設は、葉山町の公共施設の6割の床面積なので、少子高齢化、生産年齢人口が少なくなると高齢化率が高くなると、財源を支える労働者世代が少なくなってきました。そういったときに、今と同じ公共施設の量（床面積）を保つことは難しいです（どこの自治体も同じ）。床面積の大きな学校が検討対象施設として1丁目1番地の様な話になります。学校の躯体は耐震も行っている、多機能化してデイサービスを学校の躯体の中でやっているところもあります。葉山町で言うと児童館の中で、放課後児童対策事業（学童クラブ）をやっているところもあります。学童クラブの事業は民間で様々な家屋を利用し実施しているところもありますが、行政とのダブルスタンダード状態にもなっています。

学童クラブは親御さんの安心面では、学校が終わった後に、そのまま子どもが放課後に学校にいた方がよいのではないかとこの考えに基づくと、学校の多機能化の中で放課後児童対策事業ができないか、もしくは、高齢者の認知症予防教室が人気なので一緒にできないか、在学児童と高齢者が交わることで高齢者に特段の効果がでないか、と多面的にいろいろな側面から考えていく必要があると考えています。

ただこれは非常に重要な話であるため、学区の見直しや校舎の別途利用、学校数を減らすこと、小中一貫校導入等、先の長い話を議論のテーブルに載せるきっかけが必要だと考えます。

町の中では、総合計画の下に最上位計画として公共施設の総合管理計画があります。現在一次の実施計画の最中ですが、当面やるべきことだけしか書いていません。将来計画のことは、未確定な要素が多かったため掲載していません。ただ、総合計画としては、今後皆さんが委員を務めていただく一年半の間に第二期の後期の基本計画を策定します。その中で、葉山町にとって将来の公共施設量がどのくらい必要か、子どもの数がこうなる総数がこうなる、年少人口の量がこうなった時に、どこの学校がいない、どこを小中一貫校にするということではなく、床面積としては今の7割で大丈夫、財政面でいうと7割の学校の施設を、将来お金を借りて償還していくのに耐えうる割合であるのか、試算していかなければなりません。ただ、具体的にここの学校は、ここの会館はどうするかという話は、この1年半では結論を出せません。平成37年度から第5次

の総合計画があと5年半後に始まるので、その中では、ある程度地域の皆さん、学校関係者と話し合いをして、また第5次計画期間の中では公共施設の再編や多機能化を明確にする必要があると考えています。第4期の中では特に学校施設については具体的な書き方ができる材料、学校の先生方、保護者の方の納得度が高まるかという、まだ今の段階ではできません。これからの進め方については、教育委員会部局と町長部局で十分に協議をしながら、こういったタイミングで、どの様な内容のレベルができるか話し合います。今、データを集めている所であり、伊藤委員にもご協力いただきながら、例えば木古庭の会館だと児童館と併設していますが、稼働状況調査を1年かけてやりました。どのように人が入っているか、それぞれの施設によって癖があり、稼働率には山と谷があるとすると、谷の部分に隣の施設の山の部分を入れられないか、そういったことをすると、一つの施設で稼働率が一定になります。その場合に隣の施設の必要性が高いかどうかという議論が初めてできるような状況にある。その時のデータを集めているのが現在の状況である。今後の町としての大きな宿題、課題、また地域の方の納得をどう高めていくか。今後、5年半の間はどう成熟されるか、その次の第5次の計画期間の中でこういったところまでオーソライズして発信していくのがポイントとなると考えています。

臼井会長

つい最近、知り合いが横浜市の新しい庁舎の一部の人対象の内覧会に参加し、呆れて帰ってきて「この時代にあれだけ金をかけた施設をつくるのか」という話でした。公共施設を作る時のハード整備の仕方は、建ち上がった後の維持管理のコストを考えずに作っているケースがあります。メンテナンスまで含めて30年でどの位維持管理にコストがかかるか、それを減らすためには、照明はどうつけたら安上がりかなど。実はハード物は2つお金がかかり、建てる時ともうひとつ、維持管理をする際に小規模な修繕をしながら使うのにもお金がかかります。公共的な建物をつくった際の一番の欠陥は、維持管理のコストを見ないで最初のコストだけ考えて建てると後で困ることが多いです。

限界があるとは思いますが、町の中で公共的なものを作る時、どうやって建設コストを抑えるかと維持管理のコストをどうやって抑えるか、建てる段階で検討しないと、単純に面積を縮小するだけではなく、最終的には、維持管理のコストをどのように生み出すかです。水回りも時間が経てばお金がかかる、電気系統も後で手が入れやすいか、見た目を良くするために見えなくすると、後で手がかかる修繕になるかでだいぶ違います。お金をかけて新しいものを作る時、維持管理をどうするかを町は考えるべきです。なおかつ、気をつけないと横浜市のようになり、マスコミに叩かれるだろうということです。床面積を絞ることも大事ですが、最低の維持管理ができるかも大事です。

近藤委員

いろいろな観点で見直されていて良いと思っています。

改めて改善して継続は良いですが、このまま継続とあるものにも、もう一度見直しを考えるべきものもあるように思います。一つには、今回、台風15号と19号で葉山町でもかなりの被害がありました。関連してきますが、資料2-1の9頁、事業番号119「緑の保全事業」ということで

「このまま継続」となっています。良好な緑地の保全や松くい虫の防除等で緑豊かな環境を形成していくとありますが、この豊かな緑が電信柱に引っかかって電線を切ったり、電柱を倒したりなどが葉山、逗子でもありました。今後台風が縮小していくなどということも考えにくい地球環境にあって、これは町有地に限るかもしれませんが、街路樹を伐根とか、すべて切ってしまうということではなく、緑豊かな葉山であるから剪定して高さを詰める必要があるのではないかと考えます。風害でかなりの木が倒れたので、緑の保全でも、新たな着眼で、町の緑を守る必要があります。関連して、11頁の「防災対策強化事業」で、立木の伐採、避難所の整備にも関連してくると思います。ここもこのまま継続とありますが、緑を全部切ってしまうのは寂しいので、風害をしのげるような高さに管理伐採することが今後もっと求められてくると思います。

臼井会長

今の担当の課に「委員から意見があったので、実際の運営において配慮できるところを考えながら対応してください」と伝えてください。

事務局

わかりました。

近藤委員

新税として国税で「森林環境譲与税」が導入され、交付されるようになります。そういったものも活用すべき財源として考えてほしいです。

事務局

葉山町は山が多く、昔のように山に人が入らずに生活が成り立つので、山に人手が加えられずに里山が荒廃している状況があります。それによって、水路や河川、ひいては海にも様々な影響が出ています。それで森林環境譲与税の用途についても町長とも協議中です。今年度分については緑の基金として積み立てており、今後はその使い方として、行政が所有している緑地、民間が所有している土地の両方で利用できるのを、これを上手く活用して、環境課と緑の保全をしていくように担当につなぎたいです。

近藤委員

前向きな話のできたので総合計画にある基本理念「豊かな自然に囲まれた中で環境に配慮しながら安全で快適に暮らしているまち」にまさに合致します。

神奈川県では超過課税を課して水源林保全、いわゆるダムの周りの水質浄化をするための水源環境保全税も導入しています。葉山町でも超過課税ができます。これだけの広大な緑を単年度ですべてきれいにすることはできないので中長期整備を考える必要があると思います。

事務局

はい。

高梨委員

空き家のところで、まち・ひと・しごとでやや遅れているとありますが、活用していないまま放置されていたところが台風の被害で瓦が飛んだり樹木が倒れたり近隣に迷惑がかかるので、活用だけでなく、その数を把握して町で危機管理してリスクマネジメントの観点からも方向性が明確になると嬉しいと感じます。

臼井会長

実績の数字が入るまで時間がかかりますが、取り組んでいただきたいです。スペースの活用だけでなく周囲への安全管理の面もお願いいたしますという応援の趣旨で理解しました。

南委員

報告になりますが、事業番号7番にかかわって、実施したのは4月ですが、今朝、全国学力学習状況調査の結果分析をしていました。児童生徒の質問のひとつに「外国人の友だちをもったり、外国のことについてもっと知りたいと思ったりしますか」という質問がありましたが、ここの回答は、葉山町が全国に比べて15%高いです。このような質問で10%以上高いことは殆どないことですがそれを見て嬉しく感じました。

臼井会長

嬉しいことです。何か優位に作用しているのでしょうか。それが分かるともっと面白いですが。

南委員

地域性なのか、町の施策なのか。全国平均より15%、神奈川県と比べても15%高かったです。確か全国平均が70%、葉山町は85%。

早川委員

仕事柄、中小企業の社長と話をすると、最近IT関連の会社を立ち上げ、鎌倉、葉山に移り住んでいる方が多いです。その中の一人が、地域において無料でプログラミングを教える教室を開催しています。いろいろな地域でやってこられたようですが、過去に老人と小学生と一緒にしてITの教室をやった中で、一人有名人が出たらしく、80歳過ぎてGoogleで表彰されたソフトを開発されたという事例があります。その方も80歳過ぎてプログラミングを学んであまりに面白かったのでいろいろ作り、末は表彰されることとなったようでした。今、学校教育でITに力をいれていますが、例えば民間の企業とタイアップして無料で教室を開催されたり等ということは、葉山ではされていますか。

事務局

生涯学習課の所管だが葉山町は「まな SASSHi! (まなさっし)」を作成している。例えばギターが得意だから小学生に教えても良いというような登録制度がある。所管が別なので十分に機

能しているかはわかりませんが、見直し改善のところは、あまり反応が良くないです。発信力や事業内容等、葉山町にはクリエイターもいるし、今回はご欠席ですが、福安委員は外資の会社に勤務し、通勤する時間が無駄だから自宅で仕事等の環境を求めています。福安委員のための希望は、シェアオフィスを町中にたくさん作ってもらいたいということでした。夜中に家で海外に電話をすると子どもが起きてしまうので、夜間に気兼ねなく声を出せる場所が欲しいという人がいたという話もされていました。町でいろいろな分野で活躍されている人がいるが、そういった方の発掘が充分把握されていません。そのようなものがお子さんの教育や高齢者の方の IT 教室に参加いただくなどの取組を、生涯学習、町民大学、公民館活動の分野で、葉山町において才能にあふれている人を発掘して学校教育や高齢者の趣味に結びつけるように力を入れたほうがいいのではという話は、ヒアリングの中でもできると思います。いただいたご意見は原課に伝え、是非、見直しをしながら葉山町の宝である人(財)を有効活用できるようにしたいです。

早川委員

上手にまとめていただきありがとうございます。

近藤委員

今の着眼で「人の発掘、雇用の創出、就労支援」等がもう少し書き込まれて良いのではないかと思います。

空き家の話で、はからずも創業支援などのスペース、空き家をシェアオフィスにする、空いている町有地の活用という話があってもいいのではないかと思います。一例として線路の高架橋がシェアオフィスになっている、自分のやりたいシェアキッチン、安い家賃で、2坪のお店をやる等、そういった町並みを今日見ていて、葉山という町の見え方が少し変わったように感じました。就労支援やシェアオフィスの話があったが、もう少し書き込めると人を呼び込める葉山になると思いました。

臼井会長

ありがとうございます。どのような視点からでも構わないのでご意見をお願いします。

伊東委員

就労支援の問題は、町内会連合会の部会でも話が出ていて、その辺を町と一緒に考え直したいです。ゆくゆくは仕事もして、町税も上がってくるサイクルだろうから、なるべく家庭に閉じこもっている人達をなんとかしようとして来月話をまとめる予定です。政策課長が参加しているので、是非、良い結果を出してもらいたいです。

臼井会長

他の自治体では、就労絡み、つまり労働政策になると商工行政・労働行政というもの基礎的自治体にはほぼありません。逆に住民の具体的な活動ニーズとして挙がってきたものに対してどう応えるか、つまり企業をどう誘致するのかではなく、こういう取り組みをやってみたいと思

っている住民にどう答えるかのレスポンスが可能性のある話なので、是非、うまく提案していただき可能な限り1つでも2つでもフォローしていただきたいです。

荒本委員

基本目標1の「商工会と連携した事業者等への支援」とか3番の「空き家の適正管理と有効活用」について、先日、森戸神社で行われたビック葉山マーケットに行ってきましたが、賑わっていて楽しかったです。帰り道には葉山女子旅の人がたくさんいて、葉山がにぎわっていることを実感しました。商店街では賑わっていましたが空き店舗が目立つので、空き家の有効活用で商工会と連携してうまく活用できるとよいと思いました。

臼井会長

家賃さえ安くすれば、いろいろな活用の仕方が生まれてくるでしょう。

三澤委員

資料3の基本目標2の1番「子育て支援サービスの充実」のところだが、保育園が6ヵ所となり、2ヵ所増えているとの話がありましたが、葉山町に住んでいる人は、基本的には逗子駅から都内に出勤される方がほとんどなのではないかと思っていますが、そうすると保育園の設置場所ができれば逗子の駅に近いと預けるほうは便利なのではとったりします。横浜市と川崎市の市境では、その辺をうまくやりくりして利便性のかなう事例を読んだ記憶があります。それができる形になり、保育園が通勤途中にあればより住みやすくなるだろう。逗子市も待機児童の問題は大変だろうが、そんな取り組みもできると葉山町にとって、今よりも若い世代が住みやすくなるだろうと思います。

もう1点、これは横浜銀行が間違っているのかもしれませんが、お子さんがいる家庭で、出産されある程度時間が経った後、パートタイマーで来た人がいます。その間保育園に入園していましたが、小学校に入ったので学童に入れました。横浜銀行の働き方だと、逗子市では、学童に通わせる要件を充足されず、銀行を退職された事例がありました。優秀なパートだったのでもったいなかったです。小1の壁という言葉もあるので柔軟性があるとよかったです。地方銀行の置かれている環境も厳しいです。もう少しお互い知恵を出し合い寄り添えなかったかという意見です。

臼井会長

学童は放課後児童対策ですが、今は、法律に則った事業になっています。実施主体の判断が通常の保育よりきくのではないのでしょうか。実施主体に柔軟性があればなんとかなったかもしれません。

伊東委員

木古庭児童館は学童保育を行ってないのですか。

事務局

木古庭児童館が学童保育かどうかは子ども育成課に確認しないとわかりません。確認します。

事務局

もともと学童が少なかったが増えていきました。青少年会館と葉桜児童館に多く、徐々に広がっていったということですが、半分学童、半分一般来館児童の様で区別が付かず、ランドセルを背負ったまま来ている子も実態として中にはいます。

臼井会長

同じ児童福祉法ですが、事業の種類としては別であり、児童館は、いくつか類似の事業があるが一番古くからある事業で、子ども達が遊ぶ場所として地域の中に確保するのが児童館、もう片方はもともと児童福祉法にはなく、小学校に入った後一定期間、親御さんが働いていると子供だけでは心配ということで学童保育が始まり、学童保育も自治体毎にまちまちで、学童保育の場所を学校とは別のところに作ったところもあれば、学校の中に作ったところもあり、いろいろ融通を付け合い、児童館の中に人を入れて行政上了解が得られれば、一体的にやることはできるかと思えます。

事務局

今、学童保育をやっているのは、上山口小学校生は上山口児童館、一色小学校生については下山口児童館、葉山小学校生については青少年会館で、長柄小学校生については葉桜児童館ということであり、木古庭児童館としては学童保育事業は実施していません。

臼井会長

ひととおり委員の皆さんからご意見をいただきました。

特になければ審議としてのやり取りはこれまでにして事務局に戻したいですが、この後のスケジュールについて事務局からお話いただきたいです。

(3) 今後のスケジュールについて

事務局

貴重なご意見ありがとうございます。

本日、机上配布のスケジュールをご覧ください。今年度、来年度については、令和3年から令和6年までの4年間の第2期基本計画の策定という作業が始まる。本年度は、本日10月が1回目、12月に2回目、3月に3回目として、計3回の審議会開催を予定しています。12月には正式に諮問させていただき、第1期の基本計画については、概ね令和元年度までの振り返りをして3月には第2期基本計画の方向性について審議、年度明け5月～7月に4回開催し、4本の柱についてそれぞれ1回ずつ審議いただきたいです。8月にパブリックコメント、答申まとめを9月、12月に議会へ第2期基本計画（案）を上程して審議される予定です。

第2回審議会 令和元年度12月16日(月)15時～

(4) その他

臼井会長

議事録ができた後、12月後半に町議会に提出しますが、この資料そのものの内容について、議会へは現時点で提出していないため、取り扱いには注意してください。

6 閉会

臼井会長

これをもちまして第1回審議会を終わります。

終 了